

平成28年度事業報告

平成28年7月 1日から
平成29年6月30日まで

【事業の成果】

○日本IDDMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本IDDMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、最終ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にする事としました。

平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」を定義し、本年度は「根絶」を最終目標として意識するようになりました。

その約束を果たすための平成28年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

地域患者・家族会への助成金の交付、20歳以上の患者支援策実現等に対する政策提言、患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジュエC グルコース及び1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアルPart1～5の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、会報の発行などに取り組みました。

政策提言では、20歳以上の患者支援策実現に向けて活動を展開しましたが、実現には至っていません。難病法（「難病の患者に対する医療等に関する法律」、平成27年1月1日施行）に基づく対象疾病となり医療費助成が実現することを目指して患者数把握のための調査研究支援等に取り組みました。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰め込んだ「希望のバッグ」（平成26年11月配布開始）プロジェクトは、スポンサー企業や寄付者の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（2000人を見込）に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んでいきます。

また、インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグ作成や1型糖尿病と2型糖尿病の患者が交流する世界糖尿病デーのイベントに向けて準備に着手しました。

さらに、低血糖を患者に教えてくれる“低血糖アラート犬”の日本導入プロジェクトを認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン様の協力を得て着手しました。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、定員オーバーで参加をお断りすることもあり引き続き好評でした。多くの医療関係者にも参加いただき、確実に医療・療養環境の充実につながっていると認識しています。

新たに取組んだインスリンポンプの安全講習会は医療関係者からの評価も高く継続が望まれています。

日本語と英語併記で作成した1型糖尿病の絵本は、ふるさと納税の御礼としても活用したことで、海外を含めて全国47都道府県の病院、図書館等累計で1076か所に置くことができました。このほか、学校や地方自治体等での各種講演、オウンドメディアサイト「PRESS IDDM」のリニューアル、さらに、テレビ、新聞、Forbes JAPAN等でたくさん取り上げていただき、1型糖尿病の認知度が大きく向上したと認識しています。

特別児童扶養手当の不適切な取扱いに関しては厚生労働省や当該地方自治体に対して改善の申し入れを行いました。

また、新たな医療機器の導入に関しては厚生労働省へ、再生医療については文部科学省に対して患者・家族の意見を伝えました。

さらに、ここ2年間集中的に研究助成を行ってきたバイオ人工膵島移植に関する社会的インパクト評価（専門家に委託）に着手しました。

○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の第10回研究費助成（4件500万円）、継続研究費助成（2件200万円）を行い、続いて第11回研究費助成の公募も行い3件300万円の助成を決定しました。この中で、山口智之東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター特任准教授の研究成果は科学雑誌 Nature にも掲載され、今後の大きな進展が期待されます。

さらにバイオ人工膵島移植の研究に対し5件1億円の研究費助成（累計で1億5000万円）を行いました。これにより、日本におけるバイオ人工膵島移植の基盤整備が整うこととなります。

本年度は、当研究基金創設後初めて1億円を超える研究助成を行うことができました。

これにより累計では、助成件数36件、助成金額1億9000万円（決定段階を含む）となりました。

また“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第1回山田和彦賞（研究資金1000万円等の贈呈）」の公募を開始しました。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは大阪市で開催しました。終了後には、根治に向けて高額の寄付を頂戴しました。

本年度の新たな取り組みとしては、これまで研究助成を行った研究機関（東京大学医科学研究所、東京医科歯科大学 生体材料工学研究所、京都大学 iPS 細胞研究所、京都大学ウイルス・再生医科学研究所）へ患者・家族が出向く「研

研究室訪問」を行い、その進捗状況等をわかりやすくホームページやPRESS IDDMで紹介しました。

1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族のみならず病気を知らない方々の参加も得て、「治る」病気になることへの期待感が高まっています。

1型糖尿病の根治のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人として、その利点をいかすために様々なメニューを用意して寄付のお願いをしました。

基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”の第3号として、井上龍夫理事長ご家族から再生医療に取り組む若手研究者のために100万円の基金（井上家からは2回目）を創設しました。

このほか、研究推進のために寄付つき商品（販売額の一定割合を1型糖尿病研究基金に寄付）、ノーモア注射希望の本プロジェクト（家庭や職場で不要になった本を提供していただき寄付へ）、書き損じはがきプロジェクト（家庭や職場にある書き損じ、未使用のはがきを提供していただき寄付へ）等多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究金には18,279,840円（佐賀県庁へのふるさと納税を除く）がよせられ増加傾向にあります。

こうした寄付メニューの中でもノーモア注射マンスリーサポーター（1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし）の強化に取り組み、414口184名（前年度比37名増）となりました。「希望の自動販売機プロジェクト」は、企業、医療機関、公共施設、ショッピングセンター等にご協力いただき、設置台数が58台（当年度5台新設、新潟県央工業高校同窓会のご尽力）となりました。この自動販売機は、売上の一部が寄付になるだけでなく、1型糖尿病のことを掲示しており、病気の啓発にも寄与しています。

gooddo(グッドゥ)（毎週「応援する！」ボタンやサポーター企業への「いいね！」のクリックで得られたポイントに応じて支援金が届けられます。さらに、上位10団体までは、支援金額が2倍になります。）は、10位以内を全週達成し、研究費助成の財源はもとより、累計で80万人を超える方々が日本IDDMネットワークのページを訪れ、1型糖尿病の啓発にも寄与したものと思います。

ソフトバンク株式会社様には「かざして募金」（スマートフォンなどから簡単に寄付ができるサービス）に加えて、「チャリティモバイル」（専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円＋毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付）でもご支援をいただくことになりました。

ヤフー株式会社様には、YAHOO! JAPAN ネット募金でご支援をいただきことになり、ウイルス糖尿病予防ワクチン開発の研究費を募ることができました。6月末現在、4000人を超える方々から寄付を頂戴しています。

本年度で3年目となる「日本IDDMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税（寄付）では、佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」（株式会社トラストバンク運営）のご理解、ご協力を得ることができました。平成28年度（佐賀県庁の会計年度：4月－3月）は2045件、73,066,000円と、前年度と比較し33%減で1億円を割り込みましたが、平成

29年度(同)は、6月末現在305件、10,086,000円の指定寄付を頂戴しています。寄付額の95%が佐賀県庁から当法人へ寄付される見込みです。主に研究費助成のために活用いたします。

特にふるさとチョイスでは、バイオ人工膵島を作成する専用の細胞加工センターを国立国際医療研究センターに整備するキャンペーンを実施し、7000万円の研究助成を実現することができました。ふるさと納税にあたっては、たくさんの方の応援メッセージを頂戴し、さらに、申し込まれている方々の9割が患者・家族以外と推測され、この研究支援寄付が1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。本年5月からは、「治療」に焦点をあて、三林浩二東京医科歯科大学生体材料工学研究所教授グループによる研究(①「体を傷つけない血糖値評価」を目指した唾液糖の計測装置(マウスガード型バイオセンサ)の開発、②「小児発症での早期発見」および「QOL向上」を目指した呼気アセトンガス用バイオセンサの開発、③糖尿病治療のための人工膵臓を目指した薬物放出システムの開発)に対してふるさとチョイスで新たなプロジェクトとして取り組んでいます。

一方で、医療者向けのクラウドファンディングや研究を指定しての寄付募集は、目標には遠く及ばない結果となりました。次年度は目標金額を見直して再度クラウドファンディングに挑戦することといたします。

さらに本年度も、mimiface 合同会社様によるチャリティ撮影会等、支援の申し出を複数いただきました。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」—“不可能を可能にする”—を応援する100人委員会』の委員は139名となりました(前年度末比2名増)。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、株式会社大塚製薬工場研究開発センター特別顧問の松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」—“不可能を可能にする”—を応援する希望の100社委員会』は前年度と変わらず18企業・団体で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

こうした様々な事業の結果、1型糖尿病研究基金の決算額が2年連続で1億円の大台を超え(収入ベースで過去最高)、ふるさと納税の御礼の品、ふるさとチョイス掲載等の広報事業費が増加しましたが、根治に向けての研究費支援は着実に前進しており、2025年には1型糖尿病が“治る”病気になる期待感が高まっています。

しかしながら、治る病気にするための研究費は十分ではなく、ふるさと納税に過度に依存する現状から脱却するための対策の充実が欠かせません。次年度は、研究への投資等、常に改善を意識してチャレンジを続けます。

また、日本IDDMネットワークは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、さらに佐賀県への貢献を行うことを目指しましたが、ふるさと納税の返礼品に、佐賀の「女性の活躍」を意識したこだわりの佐賀県産品(有田焼等の伝統工芸品、海産物、農産物等)を贈る程度しかできませんでした。

その一方で、平成29年3月24日には、これまでの功績が認められ、山口祥義佐賀県知事から「第1回佐賀さいこう表彰(協働部門)」を受けました。

次年度以降、本部所在地である佐賀県への貢献をさらに意識して取り組みたいと考えています。

管理運営面では、上記のように年々業務が拡大しており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長が病から復帰したものの以前のような状態での業務は困難であり、大村専務理事は他業務との兼任でこれまでのような業務遂行は困難になってきています。事務局は、正職員1名、パートタイム職員4名（5名中2名は在宅勤務、1名は育児休業中）体制としましたが、常勤の役員及び事務局長の不在と言う長年の課題が解決できておらず、6月からあしなが育英会元事務局長の山北洋二氏を常勤の事務局次長として迎えました。徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、役員は全員無給で職員の給与水準は低く、関東圏の職員は最低賃金とほぼ同額という状況にあります。所要の改善が必要な状況にありますがその目途はまだ立っていません。

女性の活躍推進のために、本部のある佐賀県で、女性の活躍推進佐賀県会議に登録し、下記の自主宣言を行いました。

- 1 2020年までに役員に女性を1人以上選任します。
- 2 2017年中に在宅勤務規定を整備します。
- 3 2017年中に育児・介護休業規定を整備します。
- 4 女性の管理職誕生に向けて積極的に研修に参加させます。
- 5 女性が働きやすい職場環境の整備に取り組みます。
- 6 1型糖尿病根絶に取り組む女性研究者が安心して研究に取り組める環境を創ります。

上記2及び3に関しては規程整備を終え、4に関しては職員をアメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー等に参加させました。

5に関しては洋式トイレの整備、6に関しては宮寺浩子筑波大学医学医療系助教の1型糖尿病予防研究に対し10年間の研究助成を行うことになりました。

また、今年度も130名（前年度末比52名増、過去最高）のボランティアの方々に助けられました。

寄付に対し税制優遇措置が受けられる有効期間が平成29年8月2日で満了を迎えるため、認定特定非営利活動法人の有効期間延長申請を行いました（後日、平成34年8月2日までの延長が認められました）。

日本IDDネットワークは、4年連続で過去最高の決算額を更新しています。しかもこの2年は事業規模が1億円を超えています。ミッション達成に向けて、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪が広がりつつあります。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	21
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金を2万円交付した。 ・長野「信州ぶらんこの会」	10月26日	佐賀市	2人	60人	
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 つぼみの会 愛知・岐阜主催の「平成28年度 1型糖尿病患者児の療養および学校との連携についての教職員向け研修会」	7月27日	名古屋市	3人	119人	
	岡山小児糖尿病協会「平成28年度 1型糖尿病患者児の療養及び学校との連携についての研修会」	8月20日	岡山市	3人	65人	
	・つぼみの会三重主催の「平成28年度 1型糖尿病 先生方と患者・家族との研修会」	8月23日	津市	3人	101人	
	・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等主催の「第4回佐賀type1DM サロン」	9月22日	伊万里市	3人	67人	
	・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等主催の「第5回佐賀type1DM サロン」	3月26日	鳥栖市	3人	53人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	6763
情報収集提供・政策提言	○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を配布した。 ＜バッグに入っているもの＞ ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・患者と家族の体験談 ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・注射器や血糖測定器を入れるポーチほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町	7人	1000人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」の準備を開始した。	1月～	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	100000人	
情報収集提供・政策提言	○難病指定等による20歳以上の患者への公的支援の実現に向けて厚生労働省や患者数の把握、診断基準等の研究を行っている専門家等と情報交換を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 ほか	3人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○特別児童扶養手当等の支給について、厚生労働省や地方自治体に対し適切な対応を求めた。	通年	東京都 安城市 ほか	3人	20000人	
情報収集提供・政策提言	○文部科学省科学技術・学術審議会生命倫理・安全部会第94回特定胚等研究専門委員会で「動物性集合胚」研究の社会的必要性について、井上龍夫理事長が意見を述べた。	10月5日	東京都	3人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	3人	20000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん！ RinRin 1型糖尿病ってどんな病気？」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市ほか	3人	20000人	
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジューCグルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市ほか	3人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』をリニューアルオープンし、糖尿病に関する様々な情報発信を行った。	9月～	船橋市 大津町ほか	4人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○インスリンポンプのデコレーションシールデザインコンテストを開催し、22作品の応募の中から優秀賞2点、日本IDDMネットワーク賞1点を決定した。	9月～4月	大津町 佐賀市ほか	4人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント&先進デバイス活用セミナーを開催した。	10月16日 11月27日 12月3日 12月17日	大阪市 東京都 東京都 福岡市	19人 20人 18人 14人	116人 137人 103人 66人	
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病[IDDM]レポート2016」(IDDM白書)を2000部作成し、ホームページ上でも公開した。	11月	安城市 佐賀市 大津町ほか	8人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○OSAP療法を行う患者を対象にインスリンポンプの安全講習会を開催した。	3月5日 3月18日 3月25日 3月26日 4月2日	大阪市 仙台市 東京都 大阪市 福岡市	10人 9人 11人 9人 10人	19人 13人 45人 14人 19人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、943,408人へのリーチがあった。	通年	大津町 佐賀市	3人	60000人	
情報収集提供・政策提言	○日本糖尿病学会年次学術集会等で情報収集や情報発信を行った。	通年	東京都 名古屋市ほか	4人	60000人	
調査研究					患者及びその家族等	1266
調査研究	○1型糖尿病医療費の現状や社会経済的背景を把握し、患者に対する公的援助の政策提言にいかすため、研究助成を行った京都大学大学院薬学研究科医薬産業政策学講座柿原浩明教授が中心になって取り組む「1型糖尿病患者に対する医療費の公的援助のための医療経済的研究」に協力した。現在、最終報告書のとりまとめ中である。	通年	安城市 佐賀市ほか	3人	60000人	
調査研究	○低血糖アラート犬の日本導入に向けて準備を開始した。	9月～	船橋市 神石高原町 佐賀市 大津町ほか	4人	60000人	
調査研究	○バイオ人工膵島移植の社会的インパクト評価に向けて作業を開始した。	9月～	東京都 佐賀市ほか	3人	60000人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。	通年	佐賀市ほか	4人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	佐賀市	2人	60000人	
調査研究	○以下の調査・研究等に協力を行った。 ・社会的インパクト評価に関するヒアリング(内閣府) ・認定特定非営利活動法人等の活動状況及び消費税負担に関するアンケート調査(内閣府) ・第2回患者団体の意識・活動調査(日本製薬工業協会) ・インスリン療法におけるCSII&SAP機器の活用状況に関するアンケート調査(糖尿病ネットワーク/株創新社)	通年	東京都 佐賀市	4人	60000人	
関係団体との連携					患者及びその家族等	10
関係団体との連携	○日本糖尿病学会関係者、研究者等と1型糖尿病患者の将来のために情報交換等を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 ほか	3人	60000人	
普及啓発					患者及びその家族等	400
普及啓発	○四日市薬剤師会研修会において山本康史理事が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	7月12日	四日市市	3人	60000人	
普及啓発	○阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対東京ヤクルトスワローズ戦、阪神対横浜DeNAベイスターズ戦)に協力した。	7月26日 7月31日	西宮市 西宮市	7人 7人	60000人	
普及啓発	○山口祥義佐賀県知事と県内NPO/NGOとの集いにおいて大村詠一専務理事が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	8月31日	佐賀市	2人	60000人	
普及啓発	○みやざきNPO・協働支援センター主催の『資金調達サポート研修会「志を実現するための新しい資金獲得の方法とは」』において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	9月11日	宮崎市	2人	60000人	
普及啓発	○読売新聞九州版ライフストーリーに大村詠一専務の特集記事“「病気は個性」前向き、1型糖尿病「出会い」を力に”が掲載され1型糖尿病の啓発につながった。	9月18日	大津町	1人	60000人	
普及啓発	○TKUテレビ熊本みんなのニュースで大村詠一専務理事の特集が放送され、1型糖尿病と当法人の活動について紹介された。	10月4日	大津町	1人	60000人	
普及啓発	○公益財団法人佐賀未来創造基金主催の『「ふるさと納税」徹底研究会』において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	10月8日	佐賀市	1人	60000人	
普及啓発	○北九州市及び公益社団法人北九州市障害者相談支援事業協会主催の小児慢性特定疾病児童等自立支援事業講演会において大村詠一専務理事が1型糖尿病について紹介した。	10月8日	北九州市	2人	60000人	
普及啓発	○NHK和歌山放送局「あすのWA」で1型糖尿病のことが取り上げられ、当法人の書籍も紹介された。	10月26日	佐賀市	2人	60000人	
普及啓発	○一般財団法人地域活性化センター発行「地域づくり」【特集 クラウドファンディングで地域を元気に】に、岩永幸三副理事長の“ふるさと納税で1型糖尿病の根治へ”が掲載された。	11月1日	佐賀市	1人	60000人	
普及啓発	○月間ジャパンフィットネス11月号・12月号の「強い根っこで輝く未来!!」で大村詠一専務理事がインタビューを受け、1型糖尿病と当法人の活動について紹介された。	11月28日 12月28日	東京都	1人	60000人	
普及啓発	○FMK Morning Glory(ラジオ)「ヒューマン・ラボ」に大村詠一専務理事が出演し、1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	12月19日	熊本市	1人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○朝日新聞デジタル「ことば談話室 夢へ 力強く一歩!(上)」で大村詠一専務理事が取り上げられ、1型糖尿病と当法人の活動について紹介された。	1月11日	大津町	1人	60000人	
普及啓発	○RKK熊本放送(ラジオ)「よるめぐ」に大村詠一専務理事が出演し、1型糖尿病と当法人の活動を紹介した。	2月2日	熊本市	1人	60000人	
普及啓発	○宮崎県延岡市立土々呂中学校で大村詠一専務理事が1型糖尿病について紹介した。	2月4日	延岡市	1人	60000人	
普及啓発	○杉並区NPO支援基金普及委員会主催の『杉並区NPO支援基金普及セミナー「佐賀県に学ぶ ～ふるさと納税でできるNPO支援～」』において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	2月22日	東京都	2人	60000人	
普及啓発	○朝日新聞社主催の「糖尿病の血糖管理セミナー～血糖変動を知ることがコントロールのカギ～」で大村詠一専務理事が1型糖尿病について紹介した。	5月24日	東京都	2人	60000人	
普及啓発	○備前県民局主催の『協働実践力向上研修「わかる! したくなる! 実務に活かせる協働実践講座」』において岩永幸三副理事長が1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	6月8日	岡山市	2人	60000人	
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 大津町 ほか	5人	60000人	
普及啓発	○「1型糖尿病」の絵本を贈ろう! プロジェクト～「1型糖尿病」を知ってもらうための絵本を全国の病院の待合室などに届けたい! ～及びふるさと納税の返礼品として贈ることで、これまでに海外、全国47都道府県の病院、図書館等1076か所に絵本を置くことができた。	通年	佐賀市 大津町 ほか	11人	60000人	
普及啓発	○全国各地の小・中学校、高等学校、公民館、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演を14回行った。	通年	全国各地	1人	60000人	
普及啓発	○NHK、TBSテレビ、BSジャパン、読売新聞等からの1型糖尿病、iPS細胞、障害年金、低血糖アラート犬、入園拒否、学校での理解不足への対応、経口インスリン等に関する取材協力を行った。	通年	船橋市 安城市 佐賀市 大津町 和木町 ほか	7人	60000人	
療育相談					患者及びその家族等	923
療育相談	○電子メール(143件)、SNS(67件)、面談(1件)、相談電話(157件)、ホームページ(496、665件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 東京都 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和木町 ほか	11人	60000人	
療育相談	○第11回 2017糖尿病を持つ女性・家族と看護職者のためのセミナー in 東京「1型糖尿病を持つ女性の結婚・妊娠・出産～不安や悩みを語りつくそう!～」を糖尿病と女性のライフサポート研究会と共催で開催した。	3月4日	東京都	3人	35人	
会報発行					患者及びその家族等	338
会報発行	○会員等への情報提供のため、会報12月号を3500部、6月号を3200部発行した。	11月28日 6月12日	佐賀市 ほか	10人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
会報発行	○会員等への情報提供のため、メールマガジンを配信した。	10月3日 12月2日 12月14日 12月27日 3月24日 6月23日	佐賀市 大津町 ほか	9人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成					患者及びその家族等	107000
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第10回研究費助成の公募を行い、8件の応募の中から下記4件の助成を行った。</p> <p>※研究助成重点対象分野を、現在のインスリン補充療法を進展させる「治療」として募集した。</p> <p>※助成金の公募は平成27年度に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1型糖尿病患者における、カーボカウントに加えて脂質・タンパク質摂取にも対応できる新規追加インスリン投与方法の開発 研究代表者: 川村智行大阪市立大学大学院発達小児医学教室講師 助成額: 100万円(最長3年間) ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明 研究代表者: 宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額: 100万円 ・次世代シーケンス法を駆使した1型糖尿病原因遺伝子の同定とβ細胞機能喪失予知予防への応用 研究代表者: 能宗伸輔近畿大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科講師 助成額: 100万円 ・インスリンによらない1型糖尿病の薬物治療の可能性 研究代表者: 森山賢治武庫川女子大学薬学部 臨床病態解析学講座教授 助成額: 200万円 	8月25日 9月27日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	12人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○佐賀県庁の平成28年度の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を主な財源とし、根治への一番の早道と考えられる「バイオ人工膵島移植」研究に対し集中的に助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制の構築 研究代表者: 井上亮(京都府立大学大学院生命環境科学研究科動物機能学研究室講師) 助成額: 1,000万円 [佐賀県ふるさと寄付金(平成28年度交付分)] ・医療用ボタの作製に必須となるオペ室や無菌飼育室の設備整備に関する研究 研究代表者: 長嶋比呂志(明治大学農学部生命科学科発生工学研究室教授) 助成額: 2,000万円 [うち1,500万円が佐賀県ふるさと寄付金(平成28年度交付分)] ・臨床応用を目指したバイオ人工膵島移植(細胞加工センター整備) 研究代表者: 霜田雅之国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクトプロジェクト長 助成額: 7,000万円 [佐賀県ふるさと寄付金(平成28・29年度交付分)] 	9月27日 11月21日 3月31日 6月21日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第8回及び第9回の1型糖尿病研究基金助成対象課題の中で継続助成を希望されていた研究課題2件の助成を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病治療のための人工膵臓を目指した薬物放出システムの開発(継続 3年目) 研究代表者: 三林浩二(東京医科歯科大学 生体材料工学研究所教授) 助成額: 100万円※交付は平成29年度 ・iPS細胞由来組織前駆細胞を利用した動物体内での膵臓作成法の開発(継続 2年目) 研究代表者: 山口智之(東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター特任准教授) 助成額: 100万円 	4月10日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	13人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	<p>○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第11回研究費助成の公募を行い、12件の応募の中から下記3件の助成を決定した。</p> <p>※今回から1型糖尿病根絶のために2025年までの長期継続の研究助成をメニューに加えることとした。</p> <p>・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症・抑制機序の解明 研究代表者: 宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額: 100万円(最長9年間)</p> <p>・膵島分離技術のAIロボットによる標準化 研究代表者: 大田佳宏東京大学大学院数理科学研究科特任教授 助成額: 100万円(最長5年間)※交付は平成29年度</p> <p>・糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発 研究代表者: 宮川周士大阪大学医学系研究科准教授 助成額: 100万円※交付は平成29年度</p>	6月21日	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	13人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 研究費助成	○第1回山田和彦賞(1000万円の賞金と賞状授与)を公募し、6件の応募があった。	4月22日～ 6月30日	東京都 安城市 佐賀市 大津町	8人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム					患者及びその家族等	705
1型糖尿病研究基金 (特別会計) シンポジウム	<p>○「日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムー1型糖尿病 2025年『治らない』から『治る』へーin大阪」を開催した。</p> <p>・1型糖尿病研究基金による助成研究の紹介</p> <p>・日本IDDMネットワークによる助成研究の紹介</p> <p>・サイエンスカフェ等の分科会</p> <p>①「バイオ人工膵島移植実現に向けた取り組みー1型糖尿病研究基金の助成で見てきた全体像ー」</p> <p>②「1型糖尿病患者における、カーボカウントに加えて脂質・タンパク質摂取にも対応できる 新規追加インスリン投与法の開発ー上級カーボカウントの確立に向けてー」</p> <p>③「1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明」</p> <p>④「インスリンによらない1型糖尿病の薬物治療の可能性」</p> <p>⑤「1型糖尿病患者の医療費の負担感と生活実態についての意見交換」</p> <p>⑥「患者の妊娠と出産について」</p> <p>⑦「患児の就園・就学における患者・家族と園・学校との協力」</p> <p>⑧「発症初期の患者・家族の交流会」</p> <p>⑨「成人患者の交流会」</p> <p>⑩「高齢患者の交流会」</p> <p>・クロージングセッション ～元気になる糖尿病ライフ～ 池田 雅彦(三菱商事関西支社診療所 診療所長:医師)、安岡 久美子(保育士:患者)、中新井 美波(1-GATA ボーカリスト:患者)、大村 詠一(日本IDDMネットワーク専務理事:患者)</p>	4月22日	大阪市	62人	186人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報					患者及びその家族等	19401
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	<p>○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する100人委員会の委員が139名となった。</p> <p><100人委員会の役割></p> <p>・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。</p> <p>・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。</p> <p>・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。</p>	通年	船橋市 安城市 佐賀市	3人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」ー“不可能を可能にする”ーを応援する希望の100社委員会の委員が18社・団体のままであったが、各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	佐賀市	1人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○1型糖尿病研究基金のマンスリーサポーター獲得施策をgooddo株式会社に委託して取り組んだ。	通年	東京都 佐賀市 大津町	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○gooddo株式会社様のご協力で、社会貢献プラットフォーム「gooddo」で日本IDDMネットワークへの応援クリック、いいね等で1型糖尿病根治に向けた研究支援を呼びかけた。	通年	佐賀市 大津町	3人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助きたい!」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	船橋市 佐賀市	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)及び1型糖尿病根治の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)並びに糖尿病患者に向けた品(玄米やインスリンポーチ等)、1型糖尿病の絵本をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 小城市 嬉野市 有田町 太良町 ほか	7人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、バイオ人工臓器を作成するために必要な「細胞加工センター」設立のための支援を呼びかけた。 目標: 70,000,000円 実績: 70,447,000円 2016人からの支援申込あり	(4月26日)~ 3月31日	船橋市 東京都 佐賀市 大津町	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)のパンフレットで日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税のガバメントクラウドファンディングが紹介された。	8月	佐賀市	1人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○佐賀新聞に“13市民団体が成果報告 行政、企業と連携確認 よりよい町へ意見交換”として「山口知事とCSO等の意見交換会～ソーシャルイノベーションダイアログ～」の記事が掲載され、ふるさと納税によるNPO支援に対する大村詠一専務理事のコメントが紹介された。	9月3日	佐賀市	1人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○ふるさと納税のPRパンフレットを10,000部、PRチラシを1,000部及び返礼品チラシを6,000部作成した。	11月～3月	佐賀市 大津町	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○1型糖尿病の根治に向けて佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金1500万円を明治大学へ助成することとし、贈呈式を開催したところ、明治大学のWEB等にプレスリリースが掲載された。	11月30日	東京都	3人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○有楽町で開催された「佐賀県にふるさと納税してNPOを支援しよう」に出展し、1型糖尿病や日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税についてPRを行った。	12月3～4日	東京都	8人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○佐賀新聞に『「ふるさと納税指定を」東京 県内NPOアピール』が掲載され、有楽町で開催した「佐賀県にふるさと納税してNPOを応援しよう」についての「大村詠一専務理事のコメント」が掲載された。	12月4日	東京都	8人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○「ソフトバンク ファミリーデー in Winter 2016」に参加し、1型糖尿病や佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」(使途:1型糖尿病根治研究助成)についてPRを行った。	12月10日	東京都	7人	60000人	

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○明治大学への、バイオ人工膵島移植作製に必須となるオペ室や無菌飼育室の設備整備に関する研究への寄附金贈呈式について、読売新聞(YOMIURI ONLINE)や時事ドットコムなど35媒体に掲載された。	12月13日	佐賀市 大津町	7人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の根治に向けて佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄附金1000万円を京都府立大学へ助成することとし、寄附への感謝状贈呈式を開催したところ、京都府立大学のWEB等に掲載された。	12月16日	京都市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○明治大学広報第699号(2017年1月発行)及び第703号(2017年5月1日発行)に当法人からの研究助成が掲載された。	1月1日 5月1日	東京都 ほか	7人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさとチョイスCaféでふるさと納税の用途に関する報告会と国立国際医療研究センター霜田雅之国立国際医療研究センター研究所膵島移植プロジェクトプロジェクト長への研究助成金贈呈式を開催した。	3月13日	東京都	8人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○井上龍夫理事長が「バイオ人工膵島移植プロジェクト」実現の一翼を担う国立国際医療研究センターの春日雅人理事長を訪ね、当プロジェクトの現状と今後について対談し、その結果をWEBに掲載した。	3月13日	東京都 ほか	4人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○西日本新聞に“1型糖尿病研究にふるさと納税で1億円寄付”が掲載され、当法人のふるさと納税を活用した研究助成について紹介された。	3月14日	東京都 佐賀市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞に“「異種移植」の糖尿病治療施設、佐賀県ふるさと納税で助成”が掲載され、当法人のふるさと納税を活用した研究助成の報告会・寄附金贈呈式の様子やバイオ人工膵島移植プロジェクトについて紹介された。	3月15日	東京都 佐賀市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日経デジタルヘルスに“「ふるさと納税」で、1型糖尿病を治る病気へ”が掲載され、当法人のふるさと納税を活用した取り組みが紹介された。	3月22日	東京都 佐賀市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○埼玉新聞、日本海新聞、新潟日報、神奈川新聞、琉球新報等に“根治研究への支援に感謝 1型糖尿病NPOが報告会”が掲載され、3月13日にふるさとチョイスCaféで開催した報告会・助成金贈呈式が紹介された。	3月29日 3月30日 3月31日 4月4日	東京都 佐賀市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖質制限スプリングフェスタ2017にブース出展し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」についてPRを行った。	4月29日	大阪市	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、東京医科歯科大学三林浩二教授が中心となって進めている治療に関する三つの研究への支援を呼びかけた。 目標:15,000,000円	5月12日～	船橋市 佐賀市 大津町	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病の根治に向けて佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄附金2500万円を国立国際医療研究センターへ助成することとし、贈呈式を開催した。	6月21日	東京都	4人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○テレビ東京「カンプリア宮殿」に株式会社トラストバンクの須永珠代表取締役が出演し、その中で当法人のプロジェクトが紹介された。	6月29日	船橋市 佐賀市 大津町	4人	60000人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○医療の未来を創る エムスリー クラウドファンディングで「国内初！医療用無菌ブタを日本で作製したい」と呼びかけた。 目標：5,000,000円(9月1日～27日) 500,000円(10月1日～26日) 実績：10,000円(9月)、34,000円(10月)	9月1日～10月26日	東京都佐賀市大津町	3人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○YAHOO! JAPAN様と協働し、「Yahoo!ネット募金」で1型糖尿病予防の研究支援「子どもたちが毎日の注射をしなくてよくなるように」を呼びかけた。 目標：2,000,000円	2月1日～	佐賀市大津町	4人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○応援したい研究を指定して寄付できる研究指定寄付を開始した。 テーマ数：10プロジェクト 目標総額：89,500,000円	4月24日～	東京都佐賀市大津町	3人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第10回1型糖尿病研究基金助成課題についてプレスリリースを行い時事通信、産経ニュースなど56媒体に掲載された。	8月8日	佐賀市ほか	4人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○2年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の「根絶」を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	安城市佐賀市大津町ほか	7人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ソフトバンク株式会社様のFacebookで当法人のチャリティモバイルと活動について紹介された。	5月30日	佐賀市大津町	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○47NEWSに「1型糖尿病根治研究に助成」が掲載され、1型糖尿病研究基金「山田和彦賞」公募が紹介された。	5月30日	安城市佐賀市大津町ほか	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○毎日新聞に「1型糖尿病の患者団体が賞を創設」が掲載され、1型糖尿病研究基金「山田和彦賞」公募が紹介された。	6月1日	安城市佐賀市大津町ほか	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞に「1型糖尿病、根治へ1000万円助成 佐賀市のNPO」が掲載され、1型糖尿病研究基金「山田和彦賞」公募が紹介された。	6月9日	佐賀市大津町	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○Forbes JAPAN 2017年8月号『日本でもできる！「次世代型寄付先カタログ50』で当法人の活動が紹介された。	6月24日	安城市佐賀市	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター山口智之特任准教授の研究室を訪問し「異種動物個体内での膵臓作出と得られた膵島による糖尿病治療に関する研究」の進捗状況等について当法人のWEBで公開した。	2月8日	東京都	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○東京医科歯科大学生体材料工学研究所三林浩二教授の研究室を訪問し「糖尿病治療のための人工膵臓を目指した薬物放出システムの開発」の進捗状況等について当法人のWEBで公開した。	2月17日	東京都	3名	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○京都大学iPS細胞研究所長船健二准教授の研究室を訪問し「1型糖尿病患者由来iPS細胞を用いた病態解析研究」と「1型糖尿病に対する再生医療開発のためのiPS細胞由来移植用膵細胞の高効率分化誘導法と純化法の開発」の進捗状況等について取材を行った。	4月21日	京都市	7人	60000人	

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計) 広報	○京都大学ウイルス・再生医科学研究所角昭一郎准教授の研究室を訪問し「ブタ腺島によるポリビニルアルコール(PVA)マクロカプセル化腺島(MEIs)の研究」の進捗状況等について取材を行った。	4月21日	京都市	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計) <主な寄付金収入実績>						
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーマア注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:184名で414口 寄付金額:4,359,000円	通年	全国各地	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○コカ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、(株)ジャパンビバレッジホールディングス様、大塚食品(株)様、(株)ベネフレックス及び株式会社エフ・ヴィ・コーポレーション様、(特非)ジャパン・カインドネス協会様並びに難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:58台(5台新設※新潟県央工業高校同窓会のご尽力) 寄付金額:1,842,365円	通年	仙台市 下野市 千葉市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 神戸市 広陵町 岡山市 福山市 佐賀市 大分市	6人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○(株)バリューブックス様と協働で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーマア注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:12,673冊 寄付金額:316,708円	通年	全国各地	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○(株)バリューブックス様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数:3,859枚 寄付金額:180,160円	通年	全国各地	5人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォンなどから寄付できる「かざして募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額:732,700円	通年	全国各地	4人	60000人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)	○機種変更・新規申し込みでソフトバンク株式会社様から寄付されるチャリティモバイルが開始された。 寄付金額:6,294円	4月8日～	全国各地	2人	60000人	

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○井上龍夫理事長ご家族から「1型糖尿病に関する再生医療に取り組む若手研究者のために活用してください」と遺産寄付を頂戴した。 基金額: 1, 000, 000円	2月6日	安城市 ほか	2人	60000人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○mimiface合同会社様のチャリティ撮影会「CHARITY PHOTO EVENT」での売上の一部が寄付された。 寄付金額: 72, 000円	5月2日	東京都	2人	60000人	

(2) その他の事業 該当なし

(3) その他

○総会: 通常総会を平成28年8月27日名古屋市で開催
臨時総会を平成29年3月12日名古屋市で開催

○理事会: 第28回理事会を平成28年7月16日熊本市で開催
第29回理事会を平成29年1月31日東京都千代田区で開催
第30回理事会を平成29年3月12日名古屋市で開催

平成28年度 活動計算書
平成28年7月1日から平成29年6月30日まで

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

科目	金額 (単位: 円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	516,000	
賛助会員受取会費	252,000	
その他の会員受取会費	1,266,000	2,034,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金 (活動一般)	9,450,837	
受取寄附金 (1型糖尿病研究基金)	121,781,840	131,232,677
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,655,600	
受取負担金	6,611,620	8,267,220
4. 事業収益		
お役立ちマニュアル事業収益	1,278,509	
絵本等事業収益	85,351	
ストーリー本事業収益	90,266	
その他事業収益	29,160	1,483,286
5. その他収益		
受取利息	8,968	
雑収益	762,497	771,465
経常収益計		143,788,648
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	0	
法定福利費	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
売上原価	311,208	
業務委託費	8,542,026	
印刷製本費	2,054,878	
諸謝金	252,623	
会議費	279,451	
賃借料	510,068	
消耗品費	15,285	
水道光熱費	0	
旅費交通費	3,159,684	
支払手数料	515,705	
租税公課	800	
通信運搬費	1,180,267	
諸会費	111,040	
新聞・図書費	9,989	
支払寄付金	107,055,000	
地代家賃	0	
支援用物品費	12,793,063	
雑費	33,967	
その他経費計	136,825,054	
事業費計		136,825,054
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	6,067,068	
退職金	0	
法定福利費	669,123	
厚生費	0	
人件費計	6,736,191	
(2) その他経費		
業務委託費	3,657,670	
印刷製本費	202,180	
諸謝金	0	
会議費	10,227	
減価償却費	198,697	
賃借料	245,032	
修繕費	60,000	
消耗品費	622,552	
水道光熱費	36,000	
旅費交通費	598,572	
支払手数料	516,969	
租税公課	451	
交際接待費	0	
通信運搬費	464,215	
諸会費	0	
新聞・図書費	0	
支払寄付金	0	
地代家賃	492,480	
支援用物品費	0	
雑費	12,150	
その他経費計	7,117,195	
管理費計		13,853,386
経常費用計		150,678,440
当期経常増減額		-6,889,792
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益	0	
2. 過年度損益修正益	0	
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
1. 固定資産除・売却損	0	
2. 過年度損益修正損	0	
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		-6,889,792
法人税、住民税及び事業税		81,000
当期正味財産増減額		-6,970,792
前期繰越正味財産額		61,923,337
次期繰越正味財産額		54,952,545

※本年度は「その他の事業」は実施していません。

<1型糖尿病研究基金特別会計>

(単位：円)

科目	1型糖尿病 研究助成金	シンポジウム	広報	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						
1. 受取会費						0
2. 受取寄付金						121,781,840
3. 受取助成金等						3,658,000
4. 事業収益						114,511
5. その他収益						53,269
経常収益計						125,607,620
II 経常費用						
(1) 人件費						
給料手当	0	0	0	0	1,566,599	1,566,599
人件費計	0	0	0	0	1,566,599	1,566,599
(2) その他経費						
売上原価	0	0	115,540	115,540	0	115,540
業務委託費	0	75,727	3,957,538	4,033,265	590,976	4,624,241
印刷製本費	0	161,730	599,662	761,392	77,760	839,152
諸謝金	0	22,274	30,000	52,274	0	52,274
会議費	0	28,140	1,060	29,200	0	29,200
賃借料	0	150,020	30,000	180,020	0	180,020
消耗品費	0	1,255	3,255	4,510	0	4,510
旅費交通費	0	211,138	914,328	1,125,466	0	1,125,466
支払手数料	0	1,296	234,808	236,104	421,110	657,214
通信運搬費	0	53,879	719,275	773,154	27,836	800,990
支払寄付金	107,000,000	0	0	107,000,000	0	107,000,000
支援用物品費	0	0	12,780,913	12,780,913	0	12,780,913
雑費	0	30	14,385	14,415	0	14,415
その他経費計	107,000,000	705,489	19,400,764	127,106,253	1,117,682	128,223,935
経常費用計	107,000,000	705,489	19,400,764	127,106,253	2,684,281	129,790,534
当期経常増減額						-4,182,914

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

当法人の正味財産は54,952,545円ですが、そのうち165,000円は、下記のように使途が特定されています。

したがって使途が制約されていない正味財産は54,787,545円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
研究指定寄付	0	165,000	0	165,000	
合計	0	165,000	0	165,000	

4. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首 取得価額	取得	減少	期末 取得価額	減価償却 累計額	期末 帳簿価額
有形固定資産						
工具器具備品	399,168	118,800	0	517,968	△ 309,370	208,598
合計	399,168	118,800	0	517,968	△ 309,370	208,598

平成28年度貸借対照表

平成29年6月30日現在
 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
 (単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	49,120,220	
未収会費	6,000	
未収入金	1,357,702	
棚卸資産	6,455,714	
貯蔵品	148,776	
前渡金	540,000	
前払費用	226,485	
仮払金	5,724	
流動資産合計		57,860,621
2 固定資産		
工具器具備品	208,598	
固定資産合計		208,598
資 産 合 計		58,069,219
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	2,956,275	
未払法人税	81,000	
前受金	42,000	
預り金	37,399	
流動負債合計		3,116,674
2 固定負債		
固定負債合計		0
負 債 合 計		3,116,674
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		61,923,337
当期正味財産増加額		-6,970,792
正味財産合計		54,952,545
負債及び正味財産合計		58,069,219

平成28年度財産目録

平成29年6月30日現在
 認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク
 (単位:円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高(一般会計)	0	
現金 現金手許有高(特別会計)	0	
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	1,174,424	
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(特別会計)	4,318,146	
普通預金 みずほ銀行佐賀支店(収益事業)	214	
普通預金 百五銀行員弁支店(一般会計)	0	
普通預金 三井住友銀行佐賀支店(一般会計)	11	
普通預金 佐賀共栄銀行本店(特別会計)	65,001	
郵便貯金 福岡貯金事務センター(一般会計)	32,900	
郵便貯金 福岡貯金事務センター(特別会計)	2,140,000	
郵便貯金 福岡貯金事務センター(収益事業)	523	
郵便貯金 ゆうちょ銀行総合口座通帳(一般会計)	365,763	
定額貯金(3年) ゆうちょ銀行(一般会計)	1,000	
定期預金(1年) みずほ銀行佐賀支店(一般会計)	3,006,638	
定期預金(3月) みずほ銀行佐賀支店(特別会計)	5,001,432	
定期預金(3月) 佐賀共栄銀行本店(特別会計)	30,009,536	
定期貯金(1年) ゆうちょ銀行(一般会計)	3,004,632	
未収会費(一般会計)	6,000	
未収入金		
未収入金(一般会計)	434,000	
未収入金(特別会計)	804,791	
未収入金(収益事業)	118,911	
棚卸資産		
お役立ちマニュアル(収益事業)	5,596,379	
絵本(収益事業)	199,096	
ストーリー本(収益事業)	647,244	
グッズ(収益事業)	12,995	
貯蔵品(一般会計)	148,776	
前渡金(一般会計)	540,000	
前払費用		
前払費用(一般会計)	24,525	
前払費用(特別会計)	201,960	
仮払金		
仮払金(一般会計)	3,240	
仮払金(特別会計)	2,484	
流動資産合計		57,860,621
2 固定資産		
工具器具備品(一般会計)	208,598	
固定資産合計		208,598
資 産 合 計		58,069,219
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金		
未払金(一般会計)	1,930,244	
未払金(特別会計)	1,023,482	
未払金(収益事業)	2,549	
未払法人税(収益事業)	81,000	
前受金(一般会計)	42,000	
預り金(一般会計)	37,399	
流動負債合計		3,116,674
2 固定負債		
固定負債合計		0
負 債 合 計		3,116,674
正 味 財 産		54,952,545

注) 定額貯金、定期預金及び定期貯金の合計額6,012,270円が東京事務所開設準備積立金である。

前事業年度の年間役員名簿

平成28年7月1日から平成29年6月30日まで

認定特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

役職名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事長	井上 龍夫	愛知県安城市	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
副理事長	岩永 幸三	佐賀県佐賀市	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
専務理事	大村 詠一	熊本県菊池郡大津町	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
理事	後藤 昌史	宮城県仙台市	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
理事	山本 康史	三重県伊勢市	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
理事	寺島 直樹	岡山県岡山市	28年7月1日 ～29年6月30日	該当なし
監事	古賀 敏久	福岡県久留米市	28年7月1日 ～29年3月12日	該当なし
監事	峰 悦男	佐賀県佐賀市	29年3月12日 ～29年6月30日	該当なし

前事業年度の社員のうち10人以上の者の名簿

平成29年6月30日現在

認定特定非営利活動法人日本IDDMMネットワーク

氏 名	住 所 又 は 居 所
特定非営利活動法人秋田県1型糖尿病の会 代表者：宮下正弘	秋田県秋田市
信州ぶらんこの会 代表者：白石直人	長野県松本市
つぼみの会三重 代表者：大久保和子	三重県津市
京都滋賀つぼみの会 代表者：岡京磁	京都府京都市
大阪くるみの会 代表者：高嶋一郎	大阪府高槻市
大阪杉の子会 代表者：水内宏一	大阪府大阪市
岡山小児糖尿病協会 代表者：多賀 徹	岡山県岡山市
広島「もみじの会」 代表者：寺西明子	広島県広島市
特定非営利活動法人DMユース佐賀 代表者：坂本匡	佐賀県佐賀市
DM風の会 代表者：陶山えつ子	熊本県玉名郡和水町